

コンピューター時代、パソコンに挑戦するフレッシュ集団

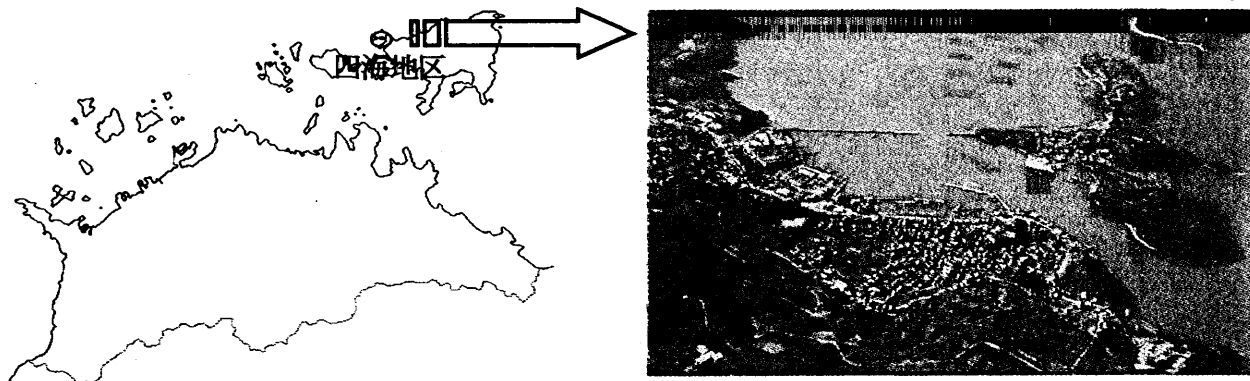
四海漁業協同組合婦人部
部長 島本純子

1. 地域の概況、および、漁協の概況

私たち四海漁協は、オリーブで知られる小豆島、土庄町北西部の三方を海に囲まれた丘陵地帯にある（下図）。四つの集落の集まりで、四海と名がついた。

地域内の人口は2,284人で、漁業者は小江集落に集中している。四海漁協の組合員数は148名（正85名 准63名）で、平成11年度の生産金額は、漁船漁業5億7千万円、養殖4億1千6百万円、合計9億8千6百万円となっている。

私たちが従事する漁業は、小型底びき・敷網・刺網等で、エビ類・イカ・タコ・鱈・マナガツオ・イカナゴ・ゲタ・カレイ他を漁獲するほか、ノリ養殖も行っている。



2. 婦人部の概要

四海漁協婦人部は、昭和36年に結成され、現在、部員数35名で、平均年齢45歳のフレッシュな集団である。例年の主な活動は、「よりよい漁家生活をめざして」をスローガンに粉石嶽普及推進、海浜清掃、共済推進、親組合・青年部と連携した青空市の開催、また、余暇を利用した日帰り旅行やスポーツ大会である。

平成11年度は、これらに加え、これから発表する実践活動に取り組んだ。

3. 実践活動課題選定の動機

昭和59年に税法改正があり、税理士に依頼して青色申告をする組合員が増えてきたが、経費が高つくので、漁獲高が低迷している昨今、少しでも経費を削りたいという要望も増していた。

しかし、青色申告を自分でできることを知ってはいても、知識もなく、面倒なこと

も多く、あきらめていた。こんなとき、漁村女性活動支援事業で指導していただけることを知り、この事業を導入することにした。

また、これからは、コンピューター時代。世間では、パソコン、インターネットとかEメールとかいった言葉がとびかっている中、少しでもパソコンの知識を得ることができたら・・・という思いもあった。

4. 実践活動の状況と成果

漁村女性活動支援事業の内容は、営漁指導事業（営漁簿作成講習会）、交流学习会、漁獲物付加価値向上事業の三つであった。部員の中から希望を取り、集まったのは14名。まず、この14名でスタートした。

① 営漁簿作成（パソコンを活用した漁業簿記の記帳）と交流学习会

県の方でパソコン一式、プリンター、営漁簿用ソフトを準備していただき、活動を始めた。最初は、簿記の勉強から。高校時代に習った人もいたが、薄れかかった知識。理解しにくい専門用語など出てくると、全くのお手上げ状態。

そのうえ、わからないのが、パソコンの打ち込み。ほとんどの人がパソコンは初めてで、打ち込むどころか、一番初歩のスイッチの入れ方・切り方やマウスの動かし方キーの打ち方等、操作の習得から始めた。

機械類に鈍い私たちにとって、講師の先生に一度や二度教えてもらっても、理解するのは容易なことではない。何度も同じことを聞くこともできず、最初は子供に教えてもらった。子供は学校の授業で取り組んでいるので、覚えも早く、内容はちがっても、操作的なことは子供の方がよくわかっていた。

このような状態のとき、他の組合、本島漁協との交流学习会を開くこととなり、本島漁協婦人部員と色々なことについて意見交換を行った。

本島漁協は、早くからパソコンを導入して青色申告の指導をしている、全国的にも名の知られた組合である。

しかも、私たちより年配の方が、漁にも出ながら時間のやりくりをして頑張っているようすを聞き、私たちも頑張ってみようと思欲が湧いてきた。

その後は、考えも新たにし、講師の先生には、予定していた講習外にも来ていただき、親切丁寧な指導を受けた。また、仲間同志で教え合い、みんな熱心に取り組み、一時は、毎日のように組合に集まるようになった。1台しかなかったパソコンも、予約時間を決め、みんなが、打てるようになった。

9月頃には、みんながスムーズに打てるようになり、ほっと一息。その頃には、参加していなかった部員からも「習いたい」という声が聞こえるようになった。自分でパソコンを買い頑張ろうとという人も4名出て、活動はますます活気づいてきた。

こんな中でも、学習内容を確実に理解しているわけではなく、漠然としたものであった。回が進むにつれ学習内容も増えるわけで、いつになっても悩まされることばかり。自信がつくようなことは、ほとんどなかった。

それでも、12月には、決算し、青色で確定申告をしなければと、みんなで励まし合った結果、5名の方が申告することができた。他の人も決算までは出すことができ最後までやり遂げた。

② 漁獲物付加価値向上事業

この事業は、冷風乾燥機を使った干物作りと、魚の味噌漬けの講習会であった。冷風乾燥機を使つての干物作りは、ゲタ・アジ・タイ・ママカリ等を材料としてやってみた。

3時間くらい乾燥機に入れると、だいたい一夜干し程度のものが、できあがった。

天候に左右されずにできるのはよいが、冷風乾燥機が高額なので、商品化は困難と思えた。

魚の味噌漬けは、アジ・タチウオ・タコ・イカ・シズで作ってみた。荒味噌に酒・みりん等を加えて味噌床を作り、魚は3日くらい、タコ・イカは1日くらい、漬け込んでできあがり。ひと味違った味が楽しめた。身の柔らかい魚は、味噌漬けすることで身がしまり、おいしかったように思えた。

現在、私たち婦人部では、初夏から秋によくとれる子ゲタを乾燥させ、独自の味で飴煮にし、パックづめにして販売しており、地域みんなに喜ばれている。

今回の講習で学んだことも基にして色々なアイデアを出し合い、これからも、年間を通じて作れ、地域みんなが水産物をたくさん食べてくれるような自主活動を続けたいと思う。

5. 波及効果

このような活動をすることにより、私たち女性にも、新しい活力が生まれてきたように思う。

みんなが集まり、話し合い、教え合いをしたことで、連帯感や信頼関係も生まれた。このことが他の活動にも影響し、なごやかな雰囲気が進められるようになった。

営漁簿の作成は、今までは、税理士に依頼していたので、内容がわからないまま進められていた。今回、自分ですることにより、収支もよくわかり、経営管理面にふれることができ、漁業経営に対する関心も深まったと思う。

パソコンについても、今回は、最終的に大きな目的の確定申告があり、それだからこそ最後までやり遂げることができ、よかったと思う。

確定申告は、全家庭に必要なことだけに、今回不参加の部員からの関心も高く、是非パソコンに挑戦したいという声も聞かれ、一部の部員から始まった小さな輪が、大きな輪に広がりつつある。

6. 今後の活動計画と問題点

1年間、講習を受け活動を展開したが、まだまだ自信がもてず、引き続き活動して

いく予定である。私たち世代は、パソコンと云ったら難しいものと考え、初めからあきらめる人も多いが、触れる回数を重ねることにより楽しくもなり、使いこなせるようになると思う。また、活動に不参加の部員でも自由にパソコンが使用できるようにし、ハガキ作成・文章作り・エクセル利用の家計簿記帳等、色々な面で活用していきたいと思う。

パソコンはほんとうに奥の深いもの、私たちが触れるのは、ほんの初歩である。今年度は、申告だけのものだけでなく、経営管理面でも色々なデータを出して見ることが次の目標にしたいと思う。これからは、コンピューターの時代。時代の流れについていけるよう、この活動を生かし、21世紀におおいにはばたきたいものである。

女性が1人の人間として自立でき、今後も親組合とともに力を合わせ、活気ある婦人部活動に取り組んでいけたらなあと思う。



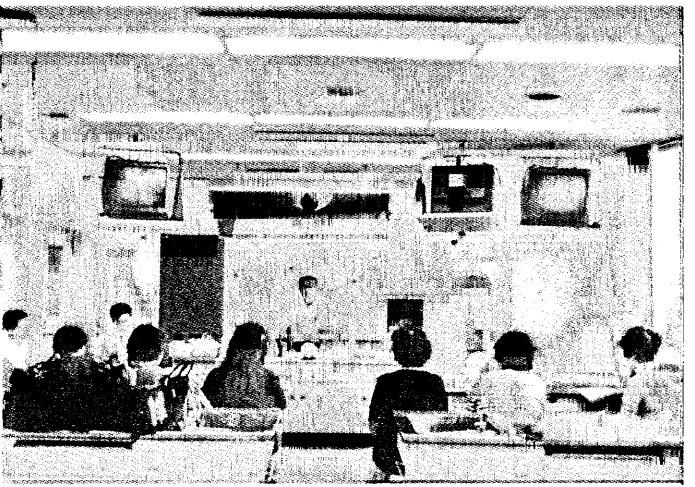
いざパソコンの世界へ



本島漁協婦人部との交流



営漁簿ソフトに挑戦、馴れれば簡単!



水産加工研修会



お互いに教え合いながらじっくり勉強!



ゲタの味噌漬けに挑戦